

令和元年度 第1回窪田空穂記念館運営委員会 会議概要

- 1 日時 令和元年5月16日(木) 午後1時30分～3時
- 2 会場 窪田空穂記念館
- 3 出席者
 - (1) 委員側
折井理智子委員、上條宏之委員、来嶋靖生委員、窪田武夫委員、坂口登美子委員、
矢島勤氏(松本久憲委員代理・高綱中学校長)、渡邊正明委員 7名
※欠席：上條昌明委員 篠弘委員 2名
 - (2) 市側
山村事業担当係長、土屋庶務係長、勝野分館長、谷口(学芸員)、神田(庶務係)
- 4 平成30年度事業報告
 - (1) 短歌講座について
ア 講師も高齢化してしまった為、新年度は若いメンバーにしたい(委員)
 - (2) 空穂生家の子ども教室
ア 特に問題なく続きそうか。(委員長)
→ 講師謝礼については、今年度囲碁と百人一首は市の予算で実行。将棋については、
引き続き将棋連盟の負担で行った。(分館長)
イ 百人一首の参加は子どもさんか。(委員長)
→ 大人も来るが、小学校高学年から中学生が中心。毎週参加する子もいる。(分館長)
 - (3) 企画展について
ア 島秋人は何回か取り上げているが、人気があるという言い方はおかしいが来る方
がいるということか。(委員長)
 - (4) 松本の子ども短歌・2018について
ア 今も短歌の打ち込みは館の中でやっているのか。(委員長)
→ 職員、学生アルバイトと11月から1ヶ月半かけ入力し、データを業者に送って
戻ってきたものを2、3回校正して冊子にしている。(分館長)
イ ある程度、量から質に変わる人も出てきている様なので、もう少し続けて良いので
はないか。(委員)
ウ 子ども短歌について、学校ではどうか。(委員長)
→ 短歌の時間はなかなかとれないが、子ども短歌のどの句を見ても素直な気持ち
ち読んでいるので、いいなと思う。(委員)
 - (5) 冬日ざしについて

ア 固定客がいるようだが、新しい展開ができるかどうか。(委員長)

(6) 松本大学との連携について

ア 松本大学との関係、多面的になってきた感じだが、反応はどうか。(委員長)

→ 記念館の説明に行かせてもらっているが、だから直ぐに来るということはないが、何名かは来館してみようかなと思ってくれる。窪田空穂を知らないし、名前を読めない学生が多いので、まずは知ってもらう第一歩にはなっている。アウトキャンパス・スタディは深まりのある学習になっている。(分館長)

(7) 教職員の研修について

ア 先生方も、窪田空穂はどういう人ですか、という話になるのですか。(委員長)

→ 何となく聞いた事がある程度で。地元施設があるということで勉強させていた
だいている。(委員)

(8) 幼保、小中学校との交流について

ア 保育園のみなさんは、散歩の寄り道で来るのですか。(委員長)

→ 生家の庭は、子どもたちが気に入っています。すべり台とブランコがあったら、な
お楽しい。(委員)

(9) 和田地区芸術文化祭について

ア 公民館さんには、一層ご尽力いただいて。(委員長)

→ 公民館の改装も終わり、今年は例年並みの文化祭ができます。(副委員長)

(10) その他

ア お茶は裏千家でやっていただいたようで。(委員長)

→ 長野県支部の青年部が参り茶会をした。(委員)

→ 窪田空穂をテーマとし、茶会の前に研究し生かしてくれた茶会だった。(分館長)

ウ Tango のコンサート、すごいですね若い人が見に来たのですか。(委員長)

→ 宣伝が余り出来ず、人が集まらなかった。今年この続きでソプラノコンサートを開
いた。空穂の短歌に曲を付け歌ってもらった。これからも引き続きやっていけたらと
思っている。(分館長)

(11) 入館者数と主な歳入について

ア 他の館の状況は、増えていますか。(委員長)

→ 増えている館と、若干減っている館と、同じ様な形で推移はきています。(係長)

イ 入館者は減ってるが収入は増えているのは。(委員長)

→ お茶とかコンサートの際には入館料(団体扱い)をいただいている。(分館長)

5 平成31年度事業計画

(1) 短歌講座について

ア 講師、若返りの傾向はある。いい選になると思う。(委員)

(2) 企画展について

ア 企画展について、空穂系とか言わないで何か新しいものは出来ないか。結社の事もありがたい事だが、もう少し内容的な事でできないか。少し違う空気をいれたいなどという気持ちがある。空穂以外の歌人が、長野や松本に来てどのような歌を読んだのか比較をする事をしてみるのもいいかもしれない（委員）

(3) 大学や高等学校との連携について

ア 昨年 校歌の展示をした。高校の先生に講演をしていたので、その後何か連携したいと思ったが進んでいない。（分館長）

イ 甲子園を見ていると校歌が出てくる。生徒は大きな声で歌っている。甲子園の校歌斉唱と何か結びつけられないか考えるところ。（委員）

ウ 短歌も少し若い世代が育ちつつある。楽観はできないものの若い人は全然見向きもしないという状態ではない。（委員）

エ 小・中・大学生と連携があるので、高校生とも関係をもちたい。（委員長）

(4) その他

ア 空穂さんのことだけでなく地域文化について勉強会みたいなことが始められればと思っている。（委員長）